

ヘルペスについて

皮膚科



ヘルペスウイルスによっておこる皮膚病には、大別すると単純ヘルペスウイルスによる単純性疱疹と水痘ヘルペスウイルスによる帯状疱疹の2種類があります。

単純性疱疹というのは、口唇や陰部などに小水疱を伴う皮疹が繰り返し生じる皮膚感染症です。口唇のものでは、痛みはあっても軽く、1～2週間ほどで自然に治癒しますが、その後も疲れたり、風邪をひいたり、紫外線にあたったりすると再発を繰り返します。水疱から接触により感染します。とくに、小さなお子様やアトピー性皮膚炎の方は皮膚の抵抗力が弱く感染すると広がってしまうこともあるので接触を避けてください。

陰部のものは、性感染症の一つで近年漸増傾向がみられます。性的接触により感染し、痛みのある水疱や浅い潰瘍を生じるため、婦人科や泌尿器科を受診される方が多いようです。とくに女性では再発を繰り返すと心理的ストレスも大きく、確実な治療が必要です。

次に、帯状疱疹ですが、こちらは痛みから発症することが多く、皮膚の病気だと気づくまでに時間がかかってしまうのが問題です。子どもの頃に罹った水痘（みずぼうそう）のウイルスが神経の中に潜んでいて、普段は抵抗力により抑えられていますが、体力が弱ったときなどに発症します。痛みの原因は神経痛であるため、しびれ感を伴ったり、しばしば原因不明の激痛を生じたりします。その後、神経の節に沿って帯状に水疱ができて、はじめて皮膚科で帯状疱疹と診断されますが、少しでも早く治療を開始するために、皆さんもこの病気について知っておいて欲しいと思います。

ヘルペス感染症には早期の抗ウイルス剤の内服が効果的です。とくに帯状疱疹の場合は早期の治療が、神経痛の軽減に結びつくので、早めに来院してください。

梶山 理嘉

医療法人社団めぐみ会

田村クリニック2

東京都多摩市落合1-35 ライオンズ多摩センター3F

<https://www.tamuracl2.com/>

予約・お問い合わせ

042-357-3671

※科目により診療時間及び受付時間が異なります。
詳しくはお問い合わせください。

ホームページ

